日刊工業新聞

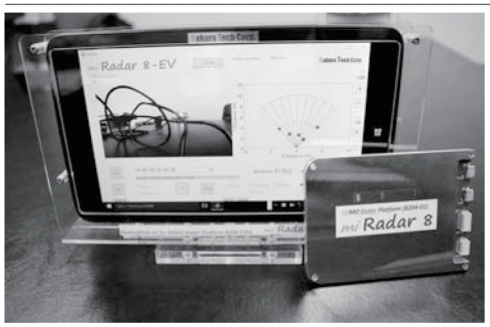
年月日	16	05	18	ページ	12	NO.	

薄型レーダーセンサーモジュール

USB接続で利用可能

サクラテック

【横浜】サクラテック（川崎市高津区、酒井文則社長、044・712・7677）は、汎用の薄型レーダーセンサーモジュール「マイレーダー8（エイト）」を開発した。自動車やロボット、セキュリティー分野など多岐にわたり利用できる。モジュール単体のほか、カメラやタッチパネルを搭載したハードウエアとしても販売する。ハードウエアの価格は25万円（消費税抜き）から。四つの受信素子と二つの送信素子を搭載しており、高精度の計測が可能だ。5月末にサンプルを発売し、初年度500個の販売を目指す。



▲汎用の薄型レーダーモジュール

レーダーは周波数24ギガヘルツ（ギガは10億）帯の準ミリ波を利用。USBをパソコンに接続するだけで簡単に使える。計測距離は60メートル程度で、検査処理速度は平均で0・08秒程度。モジュールの重さは90グラムで、大きさは横110ミリ×縦80ミリ×厚さ8ミリメートル。

半導体メーカーの米アナログ・デバイセズのレーダー用半導体を基に、サクラテックがモジュールとして組み上げた。多入力多出力伝送方式のMIMO（マイモ）を採用する。

神奈川県が進めるさがみロボット産業特区の制度を利用し、実証実験を行った。酒井社長は「自動車関連のレーダーは公表されていない部分が多い。天候や夜間にも強く、プライバシーも守れる」と期待する。

25日に横浜市西区のパシフィコ横浜で開幕する「人とくるまのテクノロジー展」に出展する。

無断転載・複写禁止©㈱日刊工業新聞社